



DBMaster

Javaクエリツール参照編

CASEMaker Inc./Corporate Headquarters

1680 Civic Center Drive
Santa Clara, CA 95050, U.S.A.

Contact Information:

CASEMaker US Division

E-mail : info@casemaker.com

Europe Division

E-mail : casemaker.europe@casemaker.com

Asia Division

E-mail : casemaker.asia@casemaker.com(Taiwan)

E-mail : info@casemaker.co.jp(Japan)

www.casemaker.com

www.casemaker.com/support

©Copyright 1995-2008 by Syscom Computer Engineering Co.

Document No. 645049-231727/DBM50J-M01312008-JSQL

発行日:2008-01-31

ALL RIGHTS RESERVED.

本書の一部または全部を無断で、再出版、情報検索システムへ保存、その他の形式へ転作することは禁止されています。

本文には記されていない新しい機能についての説明は、CASEMakerのDBMasterをインストールしてから README.TXTを読んでください。

登録商標

CASEMaker、CASEMakerのロゴは、CASEMaker社の商標または登録商標です。

DBMasterは、Syscom Computer Engineering社の商標または登録商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NTは、Microsoft社の商標または登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの商標または登録商標です。

ANSIは、American National Standards Institute, Incの商標または登録商標です。

ここで使用されているその他の製品名は、その所有者の商標または登録商標で、情報として記述しているだけです。SQLは、工業用語であって、いかなる企業、企業集団、組織、組織集団の所有物でもありません。

注意事項

本書で記述されるソフトウェアは、ソフトウェアと共に提供される使用許諾書に基づきます。

保証については、ご利用の販売店にお問い合わせ下さい。販売店は、特定用途への本コンピュータ製品の商品性や適合性について、代表または保証しません。販売店は、突然の衝撃、過度の熱、冷気、湿度等の外的な要因による本コンピュータ製品へ生じたいかなる損害に対しても責任を負いません。不正な電圧や不適合なハードウェアやソフトウェアによってもたらされた損失や損害も同様です。

本書の記載情報は、その内容について十分精査していますが、その誤りについて責任を負うものではありません。本書は、事前の通知無く変更することがあります。

コンテンツ

1	はじめに	1-1
1.1	その他のマニュアル	1-3
1.2	テクニカルサポート	1-4
1.3	字体の規則	1-5
2	JSQL 基礎	2-1
2.1	タイトルバー	2-2
2.2	メニュー・バー	2-2
2.3	ツール・バー	2-3
2.4	コマンド入力エリア	2-3
2.5	コマンド結果エリア	2-3
2.6	ステータスバー	2-5
3	JSQLの操作	3-1
3.1	データベースにログイン	3-1
	データベースに接続する	3-1
	データベースから切断	3-3
3.2	ファイル	3-4
	保存コマンド	3-4
	コマンドのロード	3-5
3.3	コマンドを実行する	3-6

	SQLを実行する	3-7
	バッチを実行する	3-7
3.4	オプション	3-8
	プリファレンス	3-8
4	メニューとツールバー参照	4-1
4.1	プルダウンメニュー一覧	4-2
4.2	ツールバー コマンド	4-3
索引		索引-1

1 はじめに

JSQユーザー参照編にようこそ。DBMasterは、強力かつ柔軟なSQL データベース管理システム (DBMS) です。会話型の構造的問合せ言語 (SQL)、Microsoftのオープンデータベース結合 (ODBC) 互換インタフェース、およびC 言語のための組込みSQL (ESQL/C) をサポートします。唯一の公開アーキテクチャーであるODBCインタフェースは、多種多様なプログラミングツールを使用して顧客アプリケーションを構築し、既存のODBC-適合アプリケーションを用いてデータベースに問合せることを可能にします。

JSQはグラフィカルユーザインタフェース (GUI) です。煩雑なDBMSと問い合わせ言語を必要とせず、直感的でわかりやすいグラフィカルインタフェースを提供します。正しいSQLを入力する煩わしさもなく、データベースを素早く管理、操作することができます。

このマニュアルではJSQを使用したデータベースへのログイン、SQL実行、表形式またはテキスト形式でのクエリ結果の閲覧を体系的に解説します。JSQを使用するに当たっては基本的なSQLの知識が必要です。

JSQはユーザが効果的にデータベースを管理するための幅広い機能があります。

- 同時に複数のクエリを実行可能
- クエリの結果を表形式/テキスト形式で表示可能
- SQLコマンドをロード/保存が可能
- バッチファイルの実行
- 表形式で複数のクエリ結果を表示

1.1 その他のマニュアル

DBMasterでは本マニュアル以外にもDBMSに必要なマニュアルを全て用意しています。特定のテーマについての詳細は、以下の書籍を参照して下さい。

- DBMasterに関する性能と特性は “DBMaster入門編” をご覧ください。
- DBMasterの設計、管理、保守についての詳細は、「データベース管理者参照編」をご覧ください。
- DBMasterの管理についての詳細は、「JServer Managerユーザーガイド」を参照して下さい。
- DBMasterの環境設定についての詳細は、「JConfiguration Tool参照編」をご覧ください。
- DBMasterの機能についての詳細は、「JDBA Toolユーザーガイド」を参照して下さい。
- dmSQLツールに関しては“dmSQLユーザガイド” をご覧ください。
- DCI COBOLインターフェースに関しては“DCI ユーザガイド” をご参考ください。
- ESQL/Cプログラムに関しては“ESQL/Cプログラマー参照編”をご参考ください。
- ODBC APIに関しては“ODBCプログラマー参照編”をご覧ください。
- エラーと警告メッセージについて“エラー・メッセージ参照編” をご覧ください。

1.2 テクニカルサポート

CASEMakerでは評価期間内で、30日間の無償でのe-mail、電話によるサポートを提供しております。ソフトウェアが登録された際の追加の30日間のサポートも含まれます。延長により合計でソフトウェアのサポートを60日間受けることができます。しかしながらバグ報告については無償サポート期間終了後も引き続きe-mailでの無償サポートを提供いたします。

60日を超えた追加サポートはほとんどの製品で有効です。製品価格の20%にてサポートを継続して受けることができます。詳細や価格については sales@casemaker.com までお問い合わせください。

郵便、電話、e-mailにてお問い合わせいただけるお近くのCASEMakerサポートをこちらからご確認いただけます。

www.casemaker.com/supportCASEMakerサポートスタッフにお問い合わせいただく前に、FAQデータベースをご覧頂くことを推奨いたします。

トラブルシューティングのお電話の際、郵送、e-mailでのお問い合わせの際に以下の情報をお伝えいただくようお願いいたします。

- 製品名とバージョン番号
- レジストレーション番号
- 登録顧客名と住所
- 購入した代理店、購入場所
- コンピュータのプラットフォーム、システム設定
- エラー発生前の操作詳細
- エラーメッセージがある場合は、メッセージとその番号
- その他関連があると思われる情報

1.3 字体の規則

本書は、標準の字体規則を使用しているので、簡単かつ明確に読むことができます。手順、例、コマンドライン規則には別の設定があり、インデントーションにて使用されます。

字体	解説
斜体	斜体は、ユーザー名や表名のような特定の情報を表します。斜体の文字そのものを入力せず、実際に使用する名前をそこに置き換えてください。斜体は、新しく登場した用語や文字を強調する場合にも使用します。
太字	太字は、ファイル名、データベース名、表名、カラム名、関数名やその他同様なケースに使用します。操作の手順においてメニューのコマンドを強調する場合にも、使用します。
キーワード	文中で使用するSQL言語のキーワードは、すべて英大文字で表現します。
小さい 英大文字	小さい英大文字は、キーボードのキーを示します。2つのキー間のプラス記号 (+) は、最初のキーを押したまま次のキーを押すことを示します。キーの間のコンマ (,) は、最初のキーを放してから次のキーを押すことを示します。
ノート	重要な情報を意味します。
プロシージャ	一連の手順や連続的な事項を表します。ほとんどの作業は、この書式で解説されます。ユーザーが行う論理的な処理の順序です。
例	解説をよりわかりやすくするために与えられる例です。一般的に画面に表示されるテキストと共に表示されます。
コマンドライン	画面に表示されるテキストを意味します。この書式は、一般的にdmSQLコマンドやdmconfig.iniファイルの内容の入/出力を表示します。

テーブル1-1 字体規則

2 JSQL 基礎

このチャプターではJSQLのワークスペースのレイアウトと基本情報を紹介しています。

- 下図はワークスペースの基本的な構図です。ユーザはコマンド入力エリアにSQLコマンドを記述し、コマンド結果エリアで結果を閲覧します。コマンド結果エリアではテキスト形式と表形式の2種類の方法で結果を表示することができます。タブから結果の表示形式を選択します。このツールではdmSQLを使用しますがホスト変数を使用したload/uploadを実行することはできません。

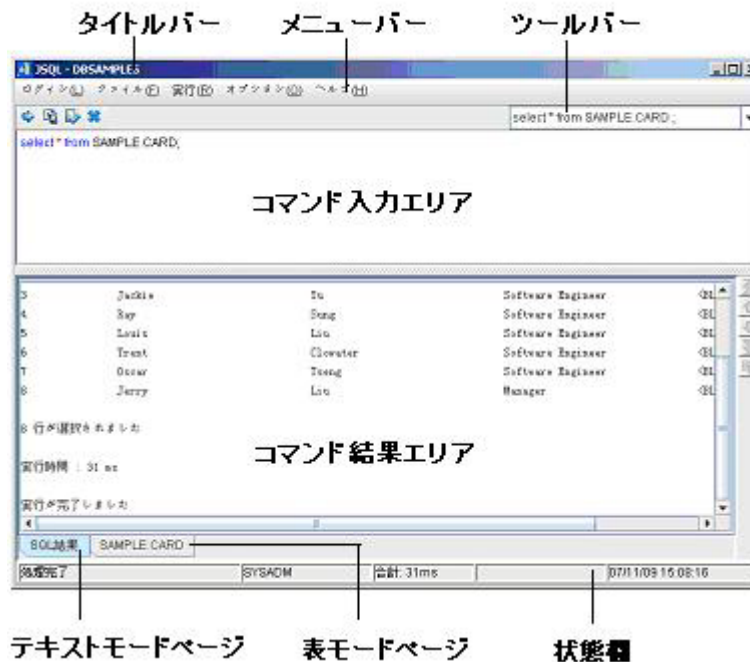


図 2-1: JSQL ツールワークスペース

2.1 タイトルバー

タイトル・バーには、プログラム名“クエリツール”、最小化、最大化、閉じるボタンが表示されています。

2.2 メニュー・バー

メニュー・バーには、JSQLのプルダウン・メニューが表示されます。各メニューの関連コマンドがあります。

2.3 ツール・バー

ツールバーはコマンド実行ボタンと使用頻度の高いコマンドのドロップダウンリストのあるパレットです。

2.4 コマンド入力エリア

コマンド入力エリアは、JSQL作業スペースのメイン・ウインドウです。コマンド入力エリアにはコマンドを入力します。

複数のコマンドを実行できますがそれぞれのコマンドをセミコロン(;)で区切ります。コマンドをコマンド画面から外部ファイルに出力、外部ファイルからコマンドをロードすることもできます。F5キー押下、またはメニューバーの実行ボタンをクリックして複数のSQLコマンドを実行します。

JSQLで使用するSQL文の詳細は「SQL文と関数参照編」をご覧ください。

2.5 コマンド結果エリア

クエリ実行時の結果はテキスト形式(dmSQLでの表示と同様)もしくは表形式にて表示されます。

コマンドが正常に実行されたか、正常な表示かエラーメッセージのどちらかが結果エリアに表示されます。

☞ 例:

1. コマンド入力エリアにコマンドを入力してください。例:

```
Select * from JSQLTEST;
```

2. F5キー押下、或いは実行ボタン()をクリックしてSQLコマンドを実行する。セミコロン(;)を使って、コマンド分割。間合せ結果はコマンド結果エリアに表示されます。
3. F4キー押下、或いはクリアボタン()をクリックしてコマンドを削除します。

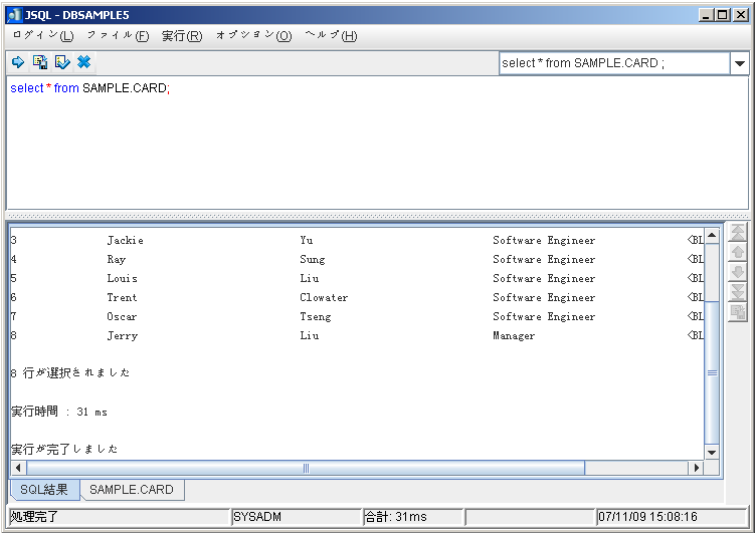


図 2-2: コマンド結果エリア-I

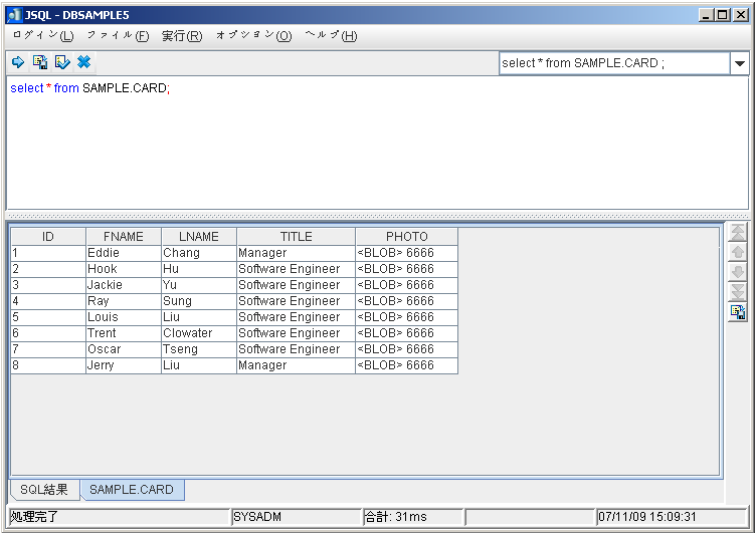
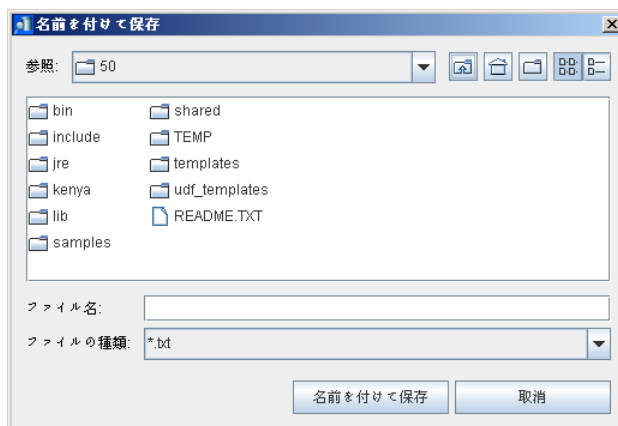


図 2-3: コマンド結果エリア-II

NOTE オプションメニュー→プリファレンスの“クエリ結果テーブルの表示”にチェックを入れると、表形式でSQLの結果が表示されます。

4. 矢印キー↑↓を使用して、表示レコード順を変更、レコード件数の多い表の表示時に移動します。
5. **保存**ボタンをクリックし、問い合わせ結果を外部ファイルに保存します。保存ダイアログボックスが表示されます。



6. ダイアログボックスにファイル名を入力してファイルの保存先を選択します。
7. **名前を付けて保存**をクリック。

2.6 ステータスバー

ステータスバーには、現在のアクティブな作業スペースと実行コマンドの総処理時間が表示されます。

3 JSQLの操作

この章では、下記のJSQLの機能について解説します：

- 様々なクエリコマンドを同時に実行
- プレーンテキストモードと表モードでクエリ結果を表示
- SQLコマンドのロード/保存
- バッチファイルから実行
- 表モードで複数のクエリ結果表示

メニューバーに以下のものがあります：ログイン、接続、切断、ファイル、終了、保存、ロード、実行、コマンドの実行、バッチの実行、オプション、プリファレンス

JSQLツールのツールバー部分からコマンドの実行、保存、ロード、策を行います。

3.1 データベースにログイン

この章はデータベースへの接続と切断について解説します。

データベースに接続する

ローカルコンピュータのにシングルユーザデータベース、リモートコンピュータにクライアント/サーバー データベースに接続する。

② データベースに接続する:

1. ログインメニューからデータベースに接続を選択

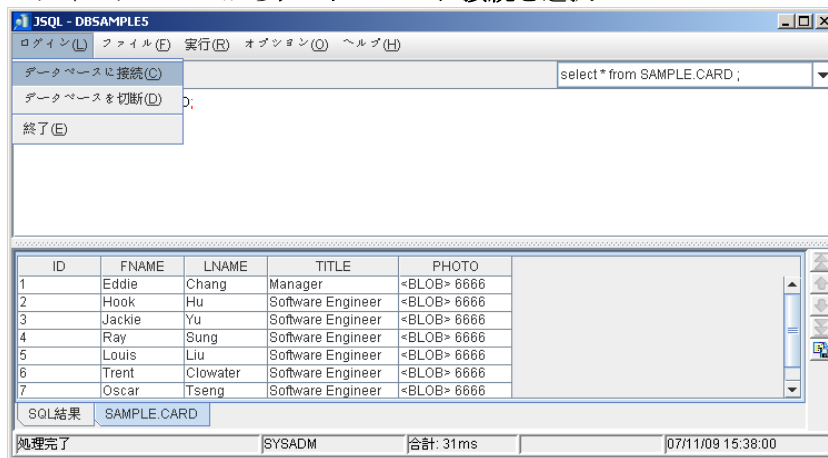


図 3-1: クエリツールメニュー

2. ログインダイアログボックスが表示される

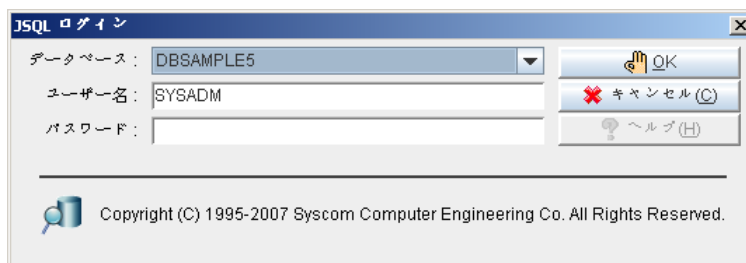


図 3-2: クエリツールログインメニュー

3. JSQLツールログイン画面のデータベースメニューからデータベースを選択。
4. ユーザ名フィールドにユーザIDを入力。

NOTE デフォルトのユーザIDが設定されていれば自動的にそのIDがユーザ名フィールドに表示されます。

5. データベース接続にパスワードを設定している場合はパスワードフィールドにパスワードを入力します。

6. OKをクリックし、JSQLのGUIが表示されます。

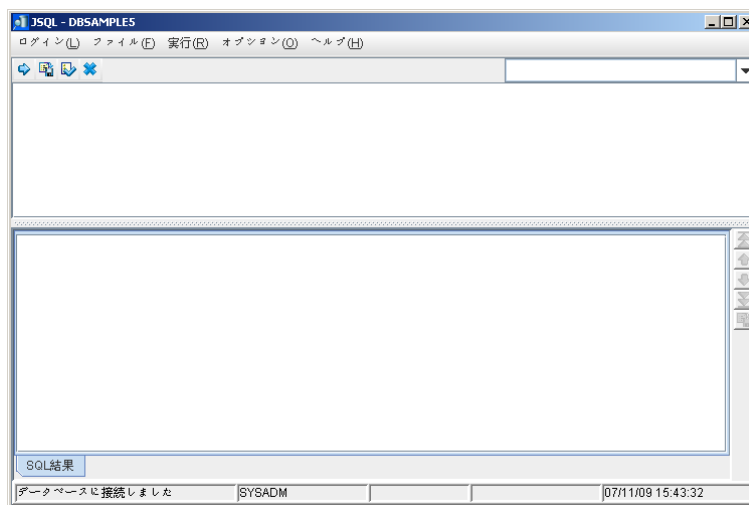
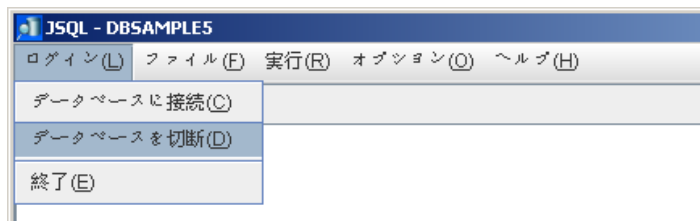


図3-3: クエリツールインタフェース

データベースから切断

メニューコマンドを使用してシングルデータベースから切断

- データベースから切断:
 1. ログインからデータベースを切断を選択する。データベースから切断します。



3.2 ファイル

SQLコマンドを外部ファイルに保存、または外部ファイルからコマンドウィンドウへのSQLコマンドのロードが可能です。

保存コマンド

クエリの結果データを外部ファイルに保存することができます。

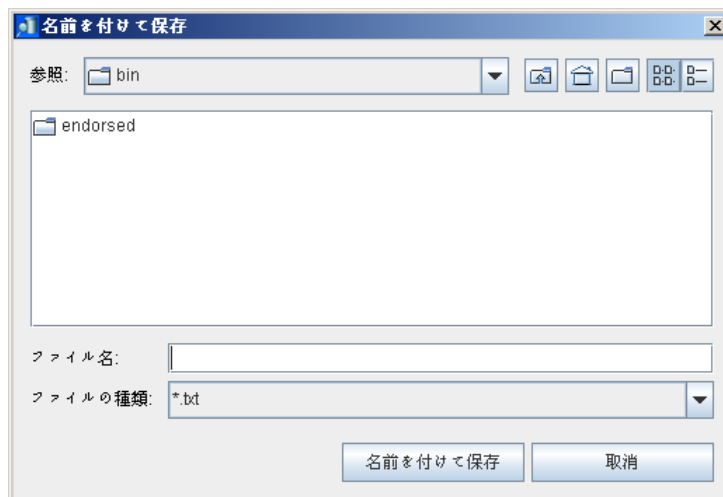
⇒ SQLコマンドの保存:

1. ファイルメニューから**コマンドの保存**を選択、**コマンドの保存**ダイアログボックスが現れる。



図3-4: コマンドの保存ダイアログボックス

2. **コマンドを以下に保存**フィールドでコマンドファイルのパスを決定。
3. ディレクトリパスをフィールドに入力するか、ブラウズボタン () を使ってコマンドファイルの保存場所を決定します。
4. ブラウズボタンをクリックすると**名前を付けて保存**がダイアログボックスに表示されます。



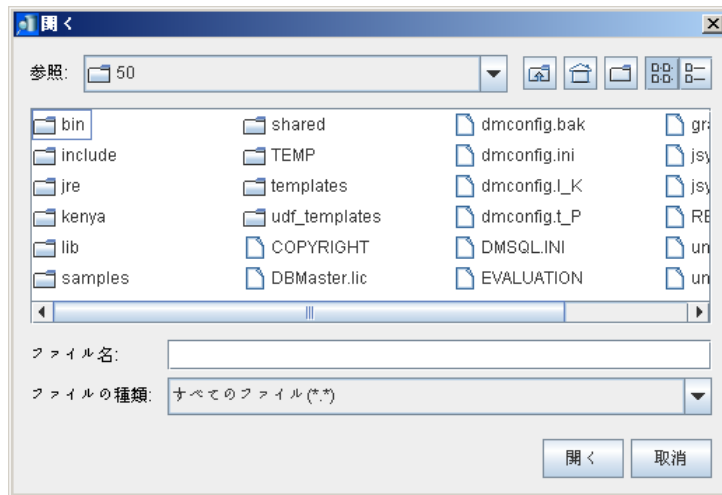
- a) ダイアログボックスにファイル名を入れてパスを指定
 - b) 名前を付けて保存をクリック
5. エンコーディングメソッドの選択リストからエンコーディングメソッドを選ぶ。JSQLはコマンド保存でDefault, Unicode Little, Unicode Bigの3種類の文字コードに対応しています。
 6. OKをクリック

コマンドのロード

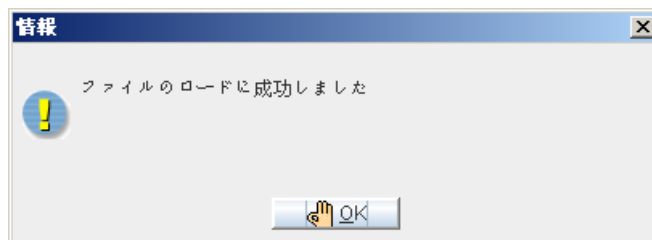
外部ファイルからコマンドウィンドウにSQLコマンドをロードすることもできます。

➡ コマンドをロード:

1. ファイルメニューからコマンドのロードを選択、ダイアログボックスに開くが表示されます。



2. 参照 からファイルパスを選択する。
3. 開くボタンをクリックすると、情報ダイアログボックスが表示されます。



4. OKをクリックすると、SQLコマンド入力エリアにロードコマンドが表示されます。
5. F5キー押下、或いは実行ボタン(実行アイコン)をクリックしてSQLコマンドを実行します。

3.3 コマンドを実行する

JSQツールを使ってバッチファイルをコマンドロードなしで直接実行できます。

SQLを実行する

コマンドの実行でSQLコマンドを実行します。F5押下、或いは実行ボタン () のクリックでも実行できます。

バッチを実行する

コマンドをロードしなくてもバッチファイルを直接実行できます。

➡ バッチコマンドを実行する：

1. 実行メニューでバッチの実行を選択。入力ファイルのエンコーディングを選択ダイアログボックスが表示される。

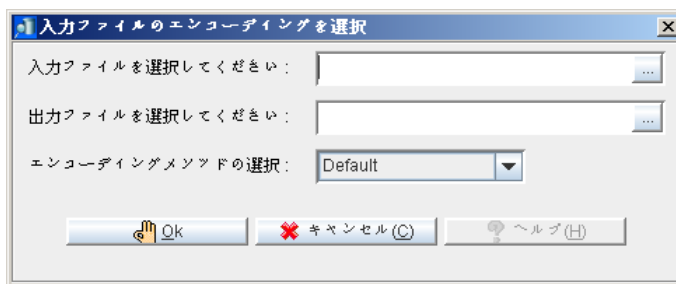


図3-5: 入出力ファイル選択ウィンドウ

2. 入力ファイルをディレクトリをフィールド“入力ファイルを選択してください”に入力、もしくはブラウズボタン () から選択してください。
3. 実行結果の保存ディレクトリをフィールド“出力ファイルを選択してください”に入力するかブラウズボタン () から選択してください。
4. エンコーディングメソッドの選択からエンコーディング方法選択。四つのエンコーディングに対応：Default, Auto, Unicode Little, Unicode Big.
5. OKをクリック。入力コマンドが選択したエンコーディングにて出力ファイルに保存されます。

3.4 オプション

JSQLツールではユーザインタフェースのプリファレンスを設定することができます。下記の設定はユーザプリファレンスウィンドウで使用できるものです。

最大履歴コマンド：データベースに保存される履歴コマンド数を設定。

クエリ結果テーブルの表示： コマンドウィンドウにクエリ結果が表形式で表示します。**レコードの最大数：** 大きなレコードを閲覧するとき、一度に表から検索するレコード数の設定。

プリファレンス

項目は最大履歴コマンド、クエリ結果テーブルの表示とレコードの最大数が含まれます。

➡ プリファレンス

1. オプションメニューからプリファレンスを選択



図 3-6: クエリツールオプションメニュー

2. セットアッププリファレンスウィンドウに一般の初期設定項目が表示されます。

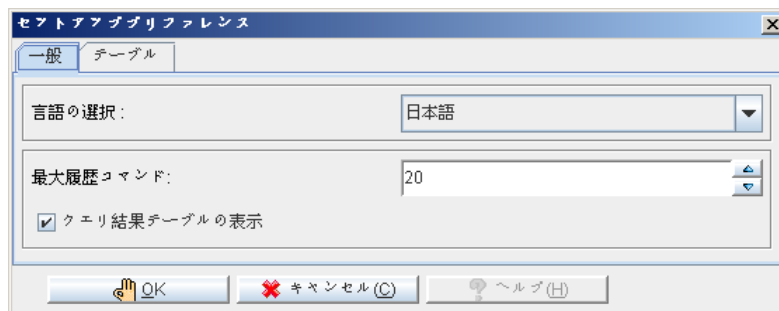


図3-7: 一般のページ

3. **最大履歴コマンド**を変更するため、このフィールドをクリックして数値を入力するか、上と下矢印を使って値を変更します。
4. **クエリ結果テーブルの表示**のチェックボックスにチェックを入れるとクエリ結果は表モードにて表示されます。
5. **テーブルタブ**をクリックして表の設定を表示

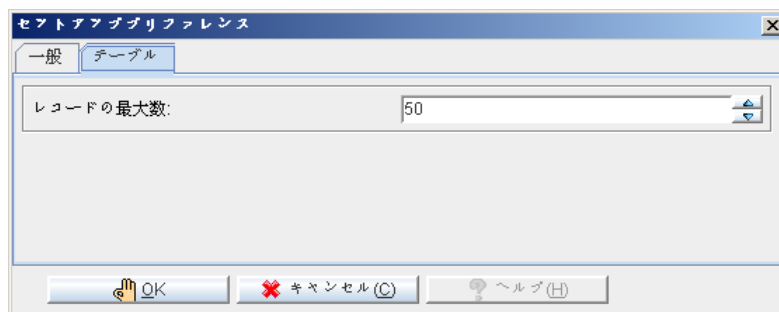


図 3-8: テーブルのページ

6. **レコードの最大数**を変更するため、このフィールドをクリックして数値を入力するか、上と下矢印を使って値を変更します。
7. **OK**をクリック

4 メニューとツールバー参照

この章はJSQLツールメニューに含まれる操作について解説します。

4.1 プルダウンメニュー一覧

JSQLの各プルダウンメニューについて解説します。

メニュー	コマンド	説明
ログイン	DBに接続	ローカルコンピューターのデータベースもしくはリモートのクライアント/サーバーDB に接続する
	DBを切断	現在のDBを切断
保存	コマンドの保存	SQLコマンドを外部ファイルに保存する
	コマンドのロード	外部ファイルからSQLコマンドをロードする
実行	SQLの実行	SQL コマンドを実行
	バッチの実行	コマンドをロードせず直接バッチファイルを実行
オプション	プリファレンス	ユーザインタフェースのプリファレンスを設定

表4-1JSQLプルダウン メニュー

4.2 ツールバー コマンド

JSQLのツールバーでは頻繁に行われる操作をボタンとドロップダウンリストボックスにて実行することができます。JSQLのツールバーに表示されるアイコン

アイコン	説明
	SQL コマンドを実行する ショートカットキー: F5
	コマンドの保存
	コマンドのロード
	コマンドの削除 ショートカットキー: F4

表 4-2 クエリツールバーアイコンリスト

索引

Java動作時間環境, 2-1- 2-6

JDBA ツール, 2-1- 2-6

JSQL, 2-1

SQLを実行する, 3-7

お

オプション, 3-8

か

関連資料, 1-2- 1-3

き

基礎, 2-1

技術サポート, 1-3, 1-4

こ

コマンド入力エリア, 2-3

コマンド結果エリア, 2-3

コマンドのロード, 3-5

さ

参考, 3-8

し

字体規則, 1-4

状態バー, 2-6

実行, 3-1

せ

た

タイトルバー, 2-2

つ

ツールバー, 2-3

ツールバーコマンド, 4-2

て

データベースに接続する, 3-2 P

データベースを切断, 3-3

データベースログイン, 3-1

と

め

メニューバー, 2-2

メニュー, 4-1

は

はじめに, 1-1- 1-2

バッチの実行, 3-7

ふ

ファイル, 3-4

ほ

保存コマンド, 3-4